

道徳科学習指導案

日時 平成29年5月26日（金）第2校時
対象 2年1組 男子19名 女子20名 計39名
指導者 教諭 山口隼人

1 主題名 「自主・自律・自由と責任」

2 主題設定の理由

自ら考え、判断し、実行し、自己の行為の結果に責任をもつことは道徳の基本であり、人間が人間として誇りをもって生きていく上で、重要なことである。つまり、周りの意見や雰囲気によって自らの意志がない判断や行動をとったり、責任を他人に転嫁したりするのではなく、自らの規範意識を高めた中で、自らを律していくことが求められる。

中学生の時期は自我に目覚め、自主的に考え、行動することができるようになる時期である。自由を求める傾向が強くなり、社会通念としての規範やこれまでの自分の価値観を捉え直そうとする時期でもある。しかし、一方では、自由の意味を履き違えて、社会の規範を顧みない生活を送ったり、自分自身の行為が自分や他者にどのような結果をもたらすかということを深く考えないまま、無責任な言動をとったりすることもある。そこで、自己の気高さに気付かせ、何が正しく、何が誤りであるかを自ら判断して望ましい行動をとれるようにすることが大切である。つまり、日常のどのような小さな行為においても、自ら考え、判断し、自分の自由な意志に基づいて決定し、それに対して責任をもたなければならないことを実感させる必要がある。

本学級の生徒は、明るく、思いやりがあり、合唱や学習など、何事にも一生懸命に取り組む姿が多く見られる。周りへの気配りができる生徒も多く、時間への意識が低い生徒に対して、時間を守るように呼びかけをするなど、互いに責任ある行動をとるための呼びかけをする姿が多く見られる。また、そういった呼びかけに対して、感謝の気持ちをもって応えることができる生徒も多い。一方で、やるべきことは分かっているが、教師や係の生徒の呼びかけがなければ、自分自身や他者への甘えから周囲の高い意識に合わせるができなかつたり、自分勝手な行動をとってしまったりする生徒も見られる。さらに、そういった雰囲気によって流されている生徒も少なくない。そこで、自律についての考えを一層深めさせることを通して、自ら考え、的確に判断し、その判断に基づいて誠実に行動することや、自分の行動の結果に責任をもつ態度を育てたいと考え、本主題を設定した。

指導にあたっては、まず学級で継続して取り組んでいる合唱を振り返らせる。その中で、高い意識をもって練習を重ねて、卒業式本番で大きな感動を生んだ合唱と朝の会や帰りの会で取り組んでいる普段の合唱との違いから、日頃の練習で自らを律することができていない現状に気付かせたい。そして、教材を通して、自らの弱さを克服しながら、自らを律することが自主・自律につながることに気付かせたい。さらに、それらを踏まえた議論を通して、生徒の多様な感じ方や考え方を引き出したい。その中で、自分で考えて、自分の意志で決定することの自覚が、責任を生み、そこから得られた自信が成長につながることに気付かせたい。本時で得られた多様な見方や考え方を自らの生き方に生かし、自律の精神を重んじ、自主的に考え、判断し、誠実に実行してその結果に責任をもつ態度を育てたい。

このような考えに立ち、本題材を設定した。

3 学習指導要領との関連

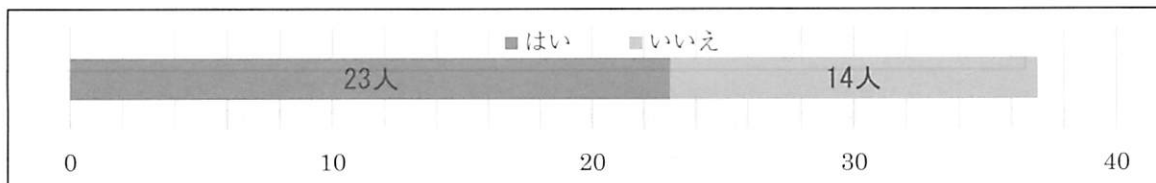
本主題は学習指導要領の次の内容項目と関連が深い。

内容 A 主として自分自身に関すること

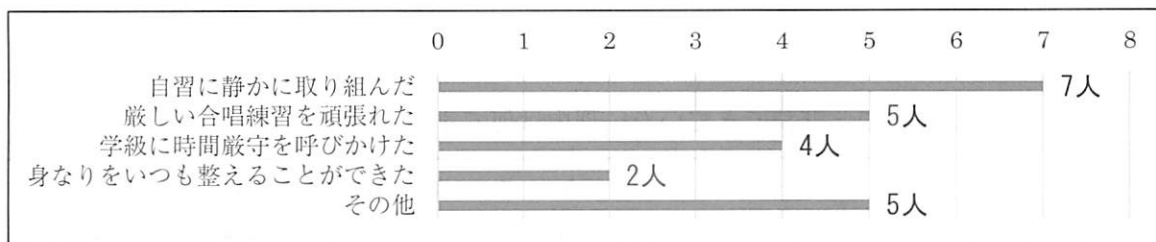
自律の精神を重んじ、自主的に考え、判断し、誠実に実行してその結果に責任をもつこと。

4 生徒の実態（実施日：平成29年4月13日 対象：2年1組 男子18名、女子19名、計37名）

Q1 これまで「自律」することができたと思う経験がありますか。



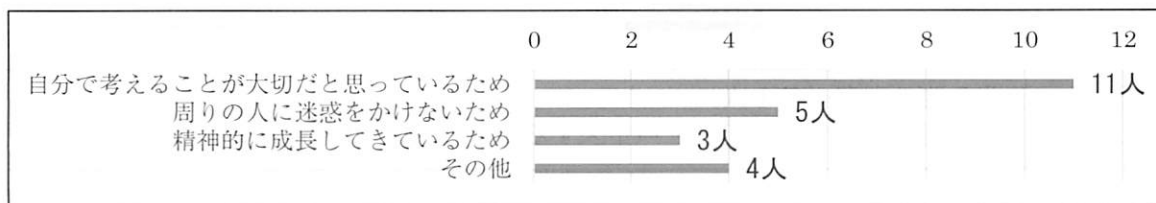
Q2 Q1で「はい」と答えた人は具体的にどのような場面での、どのような経験ですか。



その他の内容（各1人）

- ・ 友だちと喧嘩したときに、自分の言いたいことを我慢した。
- ・ 急いでいたが、無言歩行で移動した。
- ・ 疲れていたが、塾の自習に行った。
- ・ 部活の筋力トレーニングで友だちが数をごまかしていたが、自分をごまかさずに取り組んだ。
- ・ 係の仕事に責任をもって取り組んだ。

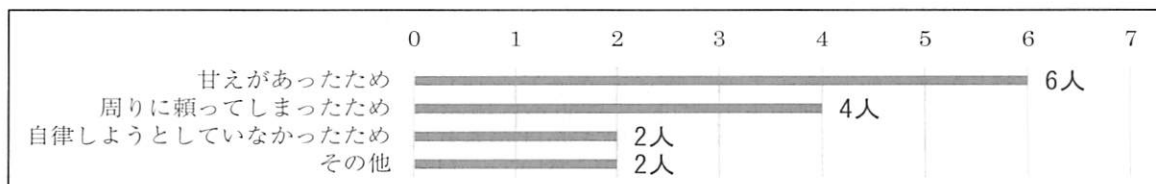
Q3 Q1で「はい」と答えた人で、自律ができた原因は何だと思いますか。



その他の内容（各1人）

- ・ これまでの経験で勇気がもてたため。
- ・ 自分を客観的に見られたため。
- ・ 自分を信じて行動できたため。
- ・ 声をかけてくれる人がいたため。

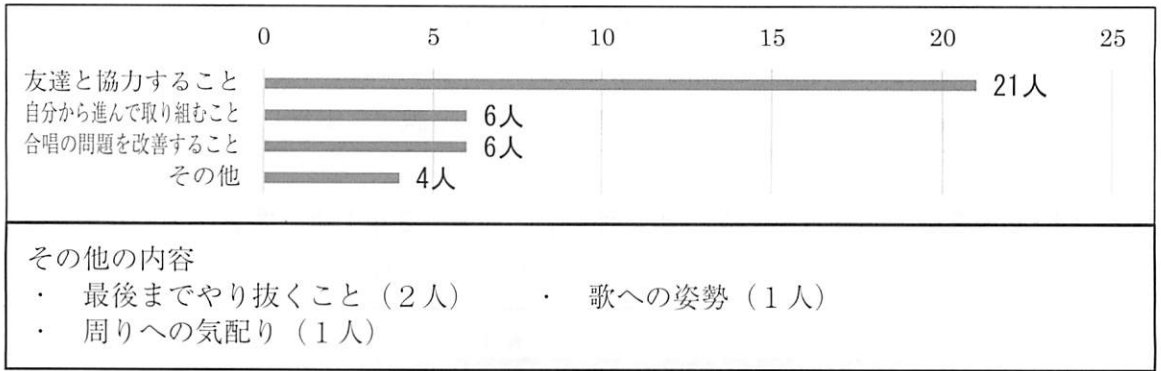
Q4 Q1で「いいえ」と答えた人で、自律ができなかった原因は何だと思いますか。



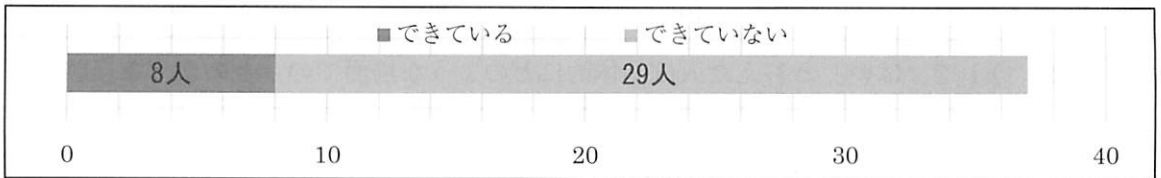
その他の内容（各1人）

- ・ 周りの雰囲気流されたため。
- ・ 欲の深さがあったため。

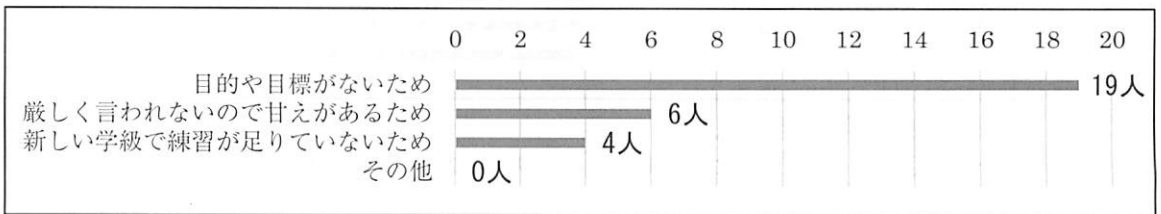
Q 5 卒業式に向けた合唱練習で身に付いたことはどのようなことですか。



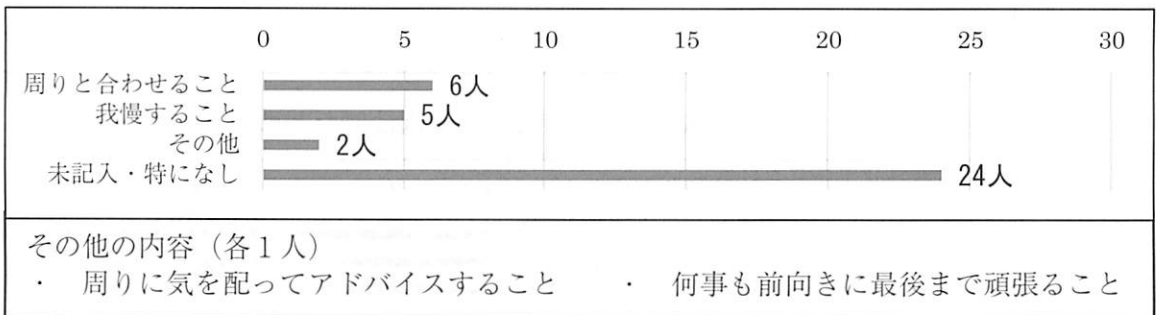
Q 6 卒業式後も卒業式に向けた合唱練習の時と同じような合唱が継続できていると思いますか。



Q 7 Q 6について、継続できていない理由は何ですか。



Q 8 卒業式の合唱練習で身に付いたことで、合唱以外で生かされていることがあれば教えてください。



〔考 察〕

Q 1から、これまでに自律することができた経験があると答えた生徒は23名、自律することができなかった経験がないと答えた生徒が14名だった。自律できた理由としては、「自分で考えることを大切にしている」と答えた生徒が多かった。一方で、自律できなかった理由としては「甘えがあった」や「周りに頼ってしまっただけ」という自分自身の弱さを原因として挙げている生徒が多く見られた。Q 5において、卒業式に向けた合唱練習について問うと、「友達と協力すること」や「自分から進んで取り組むこと」などの力が身に付いたと答えた生徒が多かった。しかし、Q 6で卒業式後の合唱練習について問うと、卒業式に向けた合唱練習の時と同じような練習が継続できないとの回答が29名見られる。さらに、卒業式に向けた合唱練習で身に付いたことが合唱以外の生活の場面でも生かされているかを問うと、「未記入」や「特になし」と答えた生徒が24名おり、練習への意欲もそこで得られたものも一過性のもので終わっている傾向が強いことが分かる。つまり、各行練習には高い意識で取り組めるが、高めた意識が継続していないという問題が分かる。意識の高い練習を継続できない理由としては、「目的や目標がないため」と答えた生徒が19名と多く見られ、多くの生徒が、教師や係の生徒の働きかけがあれば、自主的に目的や目標を見いだすことができる。しかし、日常生活のあらゆる場面において、自ら目的や目標を設定する意欲は低く、態度も十分に身に付いていないことが分かる。以上のことより、本学級の生徒において、自律の精神を重んじ、自主的に考え、判断し、行動で実践意欲や態度を育てていくことが重要であると考えられる。本来、目的や目標は他者から与えられたり、設定されたりするものではなく、よりよい自己実現を果たすために、自ら掲げられること

が望ましいと気付かせたい。また、ひとつの行事や経験から得られた学びを、一過性のもので終わらせるのではなく、次の学びへとつなげていけるような、ものの見方や考え方を育てていきたい。そこで、教材や議論を通して、自分で考えて、判断し、誠実に実行して、その結果に責任をもつことの大切さについて理解を深めさせるとともに、実践意欲や態度を育てていきたい。

5 ICEモデルを用いたルーブリック

| | Iを達成している段階 | Cを達成している段階 | Eを達成している段階 |
|--------------------|-----------------------------|---|---|
| 創造的に考える力や考えようとする態度 | 自主・自律・自由と責任について考えをもつことができる。 | 立場カードを使って議論したり、友達の意見を踏まえて考えたりすることによって、自らが捉えていた自主・自律・自由と責任の考えを多面的・多角的に捉えることができる。 | 振り返りシートを使ってこれまでの経験を踏まえて内省し、深まった価値を伴った行動をとろうとしている。 |

6 本時の実際

(1) 本時の目標

教材「僕のたびだち」を通して、自律しながら誠実に行動することの大切さについて気付かせ、さらに、議論を通して、自分で考えて、判断し、誠実に実行して、その結果に責任をもつことの大切さについて理解を深める。

(2) 教材について

本教材「僕のたびだち」は、主人公政彦が高校合格を手にしたその日に、自らの中学生生活を振り返ることから始まる。陸上部である政彦はある日、担任の井出先生に職員室へ呼ばれる。それは、授業中教科書も開かず、ノートも取らない、居眠りはするし、よく校庭を眺めている政彦の姿を見て、高校進学を危惧してのことであった。勉強が苦手だった政彦はその問題からは避けて通ることにしていて、深く考えないようにしていたが、真剣な先生の姿にしかたなく話をすることにした。そして、政彦は先生とひとつの約束をする。それは、先生が黒板に書くことを残らずノートに写すという約束であった。中学二年になるまでの数年間、ノートをしっかりと取ることなどほとんどしてこなかった政彦にとって、大変な約束であったが、約束が守れると安心感や、充実感を得られることができた。そして「黒板写し」を続けていく内に、部活でも結果が得られたり、先生に認められたりする中で、次第に他の教科も自主的に頑張ろうとする態度が育っていく、という話である。

本教材は政彦の中学二年生の時期の回想が内容の主になっており、同時期の生徒にとっては自らのことと置き換えて、共感しながら読むことができると考える。中学二年生という時期において、学校生活には、逃げたくてもやらなければならないことが多くあり、それらに対してどのように向き合っていくか、その向き合い方が中学生の成長において非常に大切なことである。多くの生徒はやりたくないことでも、誠実に向き合うことで成長につながるとは感じていつつも、なかなか行動には移すことが難しいというのが本音ではないかと考える。また、それらのことへ我慢して向き合うことで、成長につながると考えている生徒も少なくない。

教材を踏まえた上での議論を通して、「自主」「自律」「責任」について考えを深めさせることにより、「自律」とは単に自らの内に規律をつくり我慢することではなく、他者との関わりがあるからこそ、自らを律する必要がある、そこに「責任」が生まれることに気付かせたい。また、他者の関わりがあり、他者から理解されたり、認められたりする経験こそが、「自律」の力を高めていくことにつながるのだということにも気付かせたい。そして、高い規範意識の基、自分で考えて、自分の意志で決定したという自覚が、「責任」を生み、その自信が成長につながることを実感させ、実践意欲へとつなげさせたい。

以上のことから、本教材は生徒がこれまでの自分の姿から課題を設定し、級友と考え、議論することを通して、「自主・自律・自由と責任」についての理解を深めて、自律の精神を重んじ、自主的に考え、判断し、誠実に実行してその結果に責任をもつ態度を育むことができる教材であると考えられる。

(3) 指導過程 (※は、研究の重点に対応している。)

| 過程 | 学習内容・主な発問 | 時間(分) | 生徒の反応例 | 教師の働きかけと留意点 |
|----|--|-------|--|---|
| 導入 | 1 毎日の合唱練習を振り返る。 日々の合唱練習が卒業式合唱の練習の時と同じような気持ちで歌えないのはなぜですか。 | 2 | ・ 卒業式がゴールだったから。 ・ やる気が出ないから。 ・ 自分から歌いたいという気持ちがないから。 | ・ 卒業式に向けた合唱練習で、自主・自律・責任を身に付けていたことに気付かせる。 |
| | 2 事前アンケートの結果と社会人基礎力などを基に自己課題を設定する。 一つの行事で学んだことを、次につなげていくためには、どうすればよいのだろうか。 | 5 | ・ 目的や目標をもつ。 ・ 学んだことを振り返るようにする。 | ・ 行事で身に付けたことが社会人基礎力と関連することに気付かせ、必要性を確認した上で、自己課題を設定させる。 ※Ⅱ-1(2) |
| 展開 | 3 教材を音読し、問題点、改善された姿、改善できた理由等に線を引く。 彼の改善すべきところ、問題があるようです。見付けながら読んでください。 | 5 | ・ やらなければいけないことから逃がっているのが問題 ・ 先生に言われたからやっているだけで、自分の意志がないのが問題。 | ・ グループでの音読を行わせ、主人公の問題点や改善後の姿、どうして改善できたのかに気付かせる。 |
| | 4 読み取った問題点等をカードに書き出し、板書する。 | 5 | | ・ 生徒の能動的な姿を促す。 |
| | 5 主人公の心の変化について考える。 主人公が充実感を感じたり、他の教科の勉強も頑張ろうと思ったのはなぜだと思いますか。 | 5 | ・ 周りの人が褒めてくれたことにより、次も頑張ろうと思った。(自主) ・ 辛い気持ちを抑えて、ノート写しを続けた。(自律) ・ 先生との約束を守ろうとした。(責任) | ・ 生徒の気付きから自主・自律・責任という道徳的価値の重要性を抑える。 |
| | 6 教材と実生活とのつながりについて考える。 卒業式に向けた合唱練習で、政彦くんと似たような経験をしなかったか。 | 3 | ・ 初めは合唱練習が辛かったけれど、友達の支えもあって充実感を感じられた。 ・ パートリーダーの関わりのおかげで、前向きになれた。 | ・ 卒業式の合唱づくりに関わっていた人を立場カードに記入させ、多面的・多角的に考えられるようにする。 ※Ⅱ-2(3) |
| 開 | 7 学んだことを次につなげるために大切なことは何かを議論する。 一つの行事で学んだことが、いつでも、どこでも発揮できるものにするために、このプロセスで、必要なもの unnecessaryなものはないか。 <立場カード> 在校生、卒業生、パートリーダー、指揮者、伴奏者、保護者、先生、歌が苦手な人、生徒会 | 15 | <必要なもの> ・ パートリーダーがいてくれるから、より良い歌になるし、責任を果たせる。 ・ 練習の時間をかけることで良い合唱ができあがる。 <不必要なもの> ・ パートリーダーという制度がなければ、自分たちで頑張ろうという自主性が育つ。 ・ 毎日の合唱練習はなくても、行事前に集中して練習する方が、自ら取り組もうとして自主性が育つ。 | ・ 発言する際は、どの立場からの意見なのかを明確にさせる。 ・ 先生や係の生徒、卒業生など生徒が多様な立場で考えられるように立場の変換を促す。 ※Ⅱ-2(3) ・ 道徳的価値についての発言は、深く尋ねる。 ・ 自主・自律・自由と責任についての考えが深まるようにする。 ※Ⅱ-1(2)・(3) ・ 身に付く力が誰のためになるものなのかを問い、対他者、対社会の考えを深めさせる。 |
| | 8 学習活動を踏まえて、新たな自己課題を設定する。 一つの行事で学んだことを、次につなげていくためには、どうすればよいのだろうか。 | 5 | ・ 責任をもって取り組むことが、周りの人たちにも良い影響を与えると考えて行動する。 ・ 周りの雰囲気の流れに流されたり、自分の弱さに負けたりせず、自らを律して取り組むことで、全体と一緒に頑張ろうという雰囲気になる。 | ・ 考え、議論したことを基に生徒が新たな自己課題をもてるようにする。 |
| 終末 | 9 振り返りシートに道徳的価値についての考えを記入する。 自主・自律・自由と責任とはどのようなことだと思いますか。 | 3 | | ・ 内省させて、他教科や特別活動とのつながりについても考えを深めさせる。 ※Ⅱ-2(1)(2) |
| | 10 卒業生のメッセージ動画を視聴する。 | 2 | | |